

日本有数の植木のまち

匠瑛市の植木生産は、明治時代に始まったとされ、大正時代になり職業として本格化しました。当時の生産農家はわずか5、6戸で、小ぶりの観賞用樹木を細々と供給しているに過ぎませんでしたが、大正12年に大阪府池田の植木買い付け業者・阪上玄之助(さかがみのすけ)が病虫害や寒さに強い八日市場のイヌマキに目を付け、これを関西方面に出荷したことがきっかけで、植木生産が広まりました。

現在では、「日本有数の植木のまち」と知られ、植木の生産量、樹種も全国屈指。近年は中国やヨーロッパなどを中心に、輸出も拡大しています。植木輸出高日本一の千葉県にあって、伝統的な植木技術を残すため県が認定する「植木伝統樹芸士」「植木銘木100選」の大半に本市の職人や植木が選ばれていることから、「匠瑛の植木」は世界に誇れるブランドとも言えます。

1	2	3
		4
5	5	

「千葉県植木銘木100選」に認定された銘木

1.イヌマキ 2.クロマツ 3.ゴヨウマツ 4.キャラ

5. 植木まつり 新緑輝く5月の連休に、植木職人自慢の逸品や彩り鮮やかな植木・花々の展示即売会、植木の出来栄を競う共進会が開催されます。



Our city is one of the leaders in garden trees and arboriculture in Japan.



It's been said that it was started in the Meiji period and there was only 5-6 craftsmen who were making small ornamental plants. In 1923 when the era was towards the end of Taisho period an Osaka tradesman found the INUMAKI from Sosa tolerant of cold, pests and diseases. He then shipped this tree to the Kansai area and that is how the industry has started to grow. Nowadays we are one of the top producers within Japan in terms of production volume and variety of species.

Our arborists are also certified by the prefecture as Traditional UEKI craftsmen and chosen for 100 Old trees of historical interest. In recent years we have expanded the trades in exporting to Asia, and Europe and become a brand to be proud of in the world.

▼中国やヨーロッパに向けた植木のコンテナ積み込み作業



「常に勉強」
植木を世界に広げるパイオニア

家業の植木業を継いで、僕で4代目になります。ここは産地ですから、身近な職業として自然と植木屋になるのを選んだ感じですね。18歳で仕事に就いて24歳のときに今の会社の経営を父から譲り受けました。

その頃は、不景気や住宅様式の変化などで植木業界が厳しかったときに、チャンスと思いついて海外向け取引を本格的に始めました。植木の販路として海外に目を向けている人が他にいなかったもので、ノウハウもなく、その都度、国ごとに異なる検疫や規制を調査するなどして大変でしたね。今では、ヨーロッパ諸国や中国を中心に、台湾、ベトナムなどの国・地域に輸出しています。それぞれ習慣や文化、気候も違うので、常に勉強です。海外輸出が目立ってきていますけど、本当は、国内で良質の植木が消費されると良いですね。

これからの植木業は、生産者、職人さんの確保が大切ではないでしょうか。技術を継承して、いかに良いものを作っていくか。僕個人ではなく地域全体の課題として、後継者の育成が必要だと思えますね。

Special interview



有限会社共種園 代表取締役 江波戸 光一さん(東小笹)